



令和7年度

事業報告書

一般財団法人茨城県科学技術振興財団

1 事業の概要

- 本県における科学技術の基礎的・創造的な研究開発の推進及び研究体制の強化を促進し、県内の科学技術の振興に寄与するとともに、科学技術の研究交流を推進するため、次の事業を行いました。

事業名	内容
(1) 研究開発奨励事業	「江崎玲於奈賞」「つくば賞」「つくば奨励賞」 「江崎玲於奈賞受賞者と県内高校生との交流事業」
(2) つくばサイエンス・アカデミー事業	「研究・交流促進事業」「研究産業交流事業」 「異分野交流事業」
(3) つくば国際会議場管理運営事業	「貸館事業（つくば国際会議場指定管理）」 「若者向け科学技術啓発事業（自主事業）」
(4) 科学技術振興事業	「つくばサイエンスツアー推進事業」 「茨城県次世代エネルギーパーク推進事業」 「科学の甲子園全国大会エクスカージョン事業」

2 事業の内容

(1) 研究開発奨励事業

■ 「江崎玲於奈賞」「つくば賞」「つくば奨励賞」

茨城県内科学技術の振興及び産業の発展に寄与するとともに、茨城県の科学技術の水準を広く全国にPRするため、令和7年10月28日（火）に江崎玲於奈賞委員会及びつくば賞委員会をオンラインで開催し、以下のとおり各賞を決定・発表しました。

また、授賞式及び受賞記念講演会を、令和8年2月13日（金）につくば国際会議場で実施しました。

2025年度 江崎玲於奈賞	「有機二重ヘテロ構造の構築と新しい発光分子の創製による有機LEDの高性能化」	2025年度 つくば賞	「全固体電池の研究開発」
	安達 千波矢（あだち ちはや） 九州大学大学院工学研究院 主幹教授 ／最先端有機光エレクトロニクス研究センター センター長		高田 和典（たかだ かずのり） 物質・材料研究機構 フェロー
2025年度 つくば奨励賞 実用化研究部門	「持続可能な未来を支える革新的なマテリアル・イノベーション：TIISA断熱材技術の展開と社会実装」	2025年度 つくば奨励賞 若手研究者部門	「水中における通信と測位を実現する音響無線技術に関する研究」
	Wu Rudder（ウー ラダー） 物質・材料研究機構 構造材料研究センター 超耐熱材料グループ 主任研究員		海老原 格（えびはら ただし） 筑波大学 システム情報系 准教授

2 事業の内容

(1) 研究開発奨励事業

■ 「江崎玲於奈賞」「つくば賞」「つくば奨励賞」(つづき)

< 各賞の概要 >

名称	目的	対象者	贈呈品
江崎玲於奈賞	日本国内の研究機関において、ナノサイエンスあるいはナノテクノロジー、または量子効果が顕わに関わる物性に関する研究に携わり、顕著な研究業績を挙げた研究者を顕彰することにより、科学技術の振興、ひいては県内産業の活性化に寄与する。	日本国内の研究機関においてナノサイエンスあるいはナノテクノロジー、または量子効果が顕わに関わる物性に関する研究に携わり、世界的に評価を受ける顕著な研究業績を挙げた研究者、原則1名	賞状 副賞 (1,000万円) 賞牌
つくば賞	県内において科学技術に関する研究に携わり、顕著な研究成果を収めた研究者を顕彰し、創造的な研究活動を奨励することで、本県の科学技術振興、ひいては県内産業の活性化に寄与する。	基礎・応用・開発を問わず理工学及び生命科学などの研究分野に携わっている個人またはグループで次のいずれかに該当する者。(共同研究の場合はその研究に対する貢献度合いが候補者各々が1/3以上である者を表彰の対象とする。) ・本県内において現在研究活動をしているか、または過去に研究活動をしたことのある研究者であって、世界的に評価を受ける優れた創造的研究・開発成果を挙げた者。 ・世界的に評価を受ける特に優れた創造的研究・開発成果を挙げた研究者であって、その内容を本県内で開催された国際学会において初めて発表した者。	賞状 副賞 (500万円) 賞牌
つくば奨励賞	県内において科学技術に関する研究に携わり、一定の研究成果を収めた研究者若しくは将来を嘱望される研究者を顕彰し、創造的な研究活動を奨励することで、本県の科学技術振興、ひいては県内産業の活性化に寄与する。	基礎・応用・開発を問わず理工学及び生命科学などの研究分野に携わっている個人またはグループで次のいずれかに該当する者で、科学技術の振興に貢献が期待できる者。 【実用化研究部門】 本県内において現在研究活動をしているか、または研究活動をしたことがある研究者であって、その研究成果が実用化される等、優れた創造的研究・開発成果をあげた者。(共同研究の場合はその研究に対する貢献度合いが1/3以上である者を表彰の対象とする。) 【若手研究者部門】 本県内で現在研究活動をしている若手研究者(40歳以下)であって、今後飛躍的な研究成果が期待できる研究者1名。(共同研究の場合はその研究の主たる研究者であり、その貢献度合いが1/2以上である者を表彰の対象とする。)	賞状 副賞 (100万円) 賞牌

（１）研究開発奨励事業

2 事業の内容

(2) つくばサイエンス・アカデミー事業

■ 研究・交流促進事業

研究者の交流促進や、科学・技術に対する社会的関心を高めるため、フォーラム、交流会等を実施しました。

「SATフォーラム2025」

令和7年7月16日（水）

場所：つくば国際会議場 Leo Esakiメインホール

講師：総合地球環境学研究所 所長 山極壽一先生

演題：ゴリラから学んだ人類の過去と未来

参加者：782名



「第18回SATつくばスタイル交流会」

令和7年11月29日（土）

場所：つくば国際会議場中ホール200

< 第1部【講演】 >

○テーマ：「地球内部環境の実現による材料合成研究－高温高圧下でのダイヤモンドと関連物質の合成と機能開拓－」

○講師：物質・材料研究機構理事・フェロー・ナノアーキテクトニクス材料研究センター長 谷口尚先生

< 第2部【弦楽トリオコンサート】 >

チェロ：宇野陽子氏、ヴァイオリン：間野久美子氏、

ヴィオラ：柳沢朋子氏

< 第3部【茶話会】 >

参加者：124名



2 事業の内容

(2) つくばサイエンス・アカデミー事業

■ 研究・交流促進事業（つづき）

「第20回研究情報交換会」

令和7年8月6日（水）

場所：つくば国際会議場 4階サロンレオ、またはオンライン

シリーズ「電子顕微鏡法の現状と今後」その 4（最終回）

< 講演① >

講演：筑波大における共同利用型3DED/microEDの立ち上げと運用

講師：筑波大学 生存ダイナミクス研究センター 准教授
安達成彦先生

< 講演② >

講演：ガラス材料の観察のための5次元走査型透過電子顕微鏡法

講師：物質・材料研究機構 若手国際研究センター
ICYSリサーチフェロー 中澤克昭先生

参加者：26名



ガラス材料の観察のための5次元走査型透過電子顕微鏡法

2025/8/6
物質・材料研究機構
中澤克昭

※現地+Webのハイブリット開催

2 事業の内容

(2) つくばサイエンス・アカデミー事業

■ 研究・交流促進事業（つづき）

「サイエンス・シニアサロン in Tsukuba」

回次	開催日	場所	参加者	テーマ	講師
第6回	令和 7年 4月23日（水）	つくば国際会議場	38名	騙されがちな火災事件の調査報告書 ～歪曲・捏造がまかり通る火災調査報告書～	(有)バルアソシエイツ代表取締役・理学博士 鈴木弘昭先生
第7回	令和 7年 6月11日（水）	つくば国際会議場	56名	ヒト、石に惹かれる	産業技術総合研究所 名誉リサーチャー 青木正博先生
第8回	令和 7年 9月25日（木）	つくば国際会議場	53名	教科書神話の賞味期限・生物とはなにか？	筑波大学名誉教授/つくばサイエンス・アカデミー総務委員 林純一先生
第9回	令和 7年 10月16日（木）	つくば国際会議場	46名	教科書神話の賞味期限・ゲノムとはなにか？	筑波大学名誉教授/つくばサイエンス・アカデミー総務委員 林純一先生
第10回	令和 7年 12月15日（月）	つくば国際会議場	35名	なぜ、津波警報・注意報は24時間以上続いたか？カムチャッカ地震の場合	静岡大学防災情報センター客員教授 石川有三先生
第11回	令和 8年 2月17日（火）	つくば国際会議場	54名	震源の3次元投影による首都圏地震モデルについて	防災科学技術研究所客員教授 石田瑞穂先生

2 事業の内容

(2) つくばサイエンス・アカデミー事業

■ 研究産業交流事業

つくばをはじめ首都圏などで活躍する研究者・技術者が、最新の研究成果、アイデア、技術を相互に披露し交流する、つくばならではの交流事業として、「SATテクノロジー・ショーケース」を実施しました。

「SATテクノロジー・ショーケース2026」

つくばをはじめ首都圏などで活躍する研究者・技術者が、最新の研究成果、アイデア、技術を相互に披露し交流する、つくばならではの交流事業です。

令和 8年 1月22日 (木)

場所：つくば国際会議場

主催：つくばサイエンスアカデミー

企画・運営：SATテクノロジー・ショーケース2026実行委員会

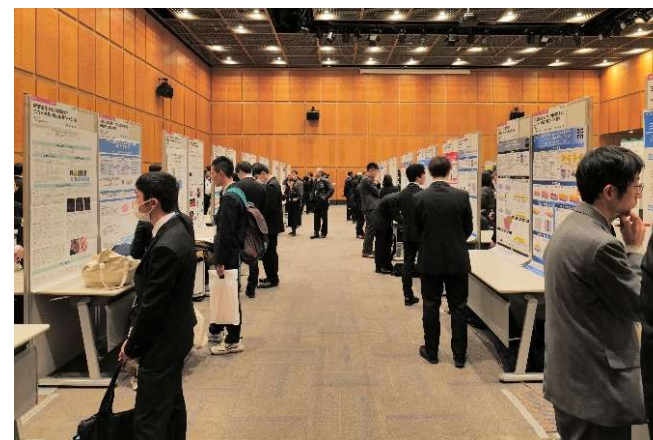
協力：産業技術総合研究所

○応募資格及び発表費

- ・つくば発注目研究ポスター：50,000円/件
- ・大学、研究機関、企業などの研究者・技術者：30,000円/件
- ・博士研究員（ポスドク等）：20,000円/件
- ・大学（院）生、高校生：無料

○開催結果

- ・参加者数：374人
- ・ポスター発表：147件、インデクシング発表：146件
- ・特別シンポジウム（企画：産業技術総合研究所）
テーマ：『未来』を描くマテリアルー身近なものから∞までー
- ・展示出展団体数：22機関・団体
- ・HPポスター閲覧回数（2月末まで）：8,098回



2 事業の内容

(2) つくばサイエンス・アカデミー事業

■ 異分野交流事業

異分野交流の強化・拡充を図るため、「つくば科学・技術産業イニシアティブ」に共催という形で参画しました。

「つくば科学・技術産業イニシアティブ」

開催日	形式	参加者	テーマ	講師
第189回 令和 7年 5月16 日(金)	ハイブリッド	37名	①宇宙技術ハイパースペクトルによって病も飢えも争いもない世界を実現する ②迫る2050年問題。食糧危機に日本はどう備える？～宇宙でも使われる植物工場技術で食糧生産と育種の超効率化を達成する～	①Milk(株) 社長 中矢大輝氏 ②(株)ジャパンプランツテクノロジー 代表取締役 椎光義氏
第190回 令和 7年 7月10日(木)	オンライン	46名	①持続可能な農業の実現に向けて～有機農業の推進の取組～ ②機能性食品開発から見た日本の農業と未来	①農林水産省 農産局農産政策部 農業環境対策課 課長補佐 今林利恵子氏 ②(株)常磐植物化学研究所 代表取締役社長 立崎仁氏
第191回 令和 7年 9月8日(月)	オンライン	38名	①Well-beingな社会の実現に向けて：つくばデジタルバイオ国際拠点における活動 ②SIPでの研究成果や軽度不調に関わるセルフケア食の開発	①つくばデジタルバイオ国際拠点PL 西山博之先生 ②農業・食品産業技術総合研究機構 食品研究部門 エグゼクティブリサーチャー 山本（前田）万里先生
第192回 令和 7年11月11日(火)	ハイブリッド	43名	日本が豊かに成長していく上での構造的課題と成長・分配政策の方向性	米国ハーバード・ビジネススクールエグゼクティブ・フェロー 新原浩朗先生
第193回 令和 8年 1月29日(木)	オンライン	41名	国際性と学際性による研究力強化、そしてGlobal Trustの創成へ	筑波大学学長 永田恭介先生
第194回 令和 8年 3月17日(火)	オンライン	28名	①フューチャー・デザイン ②まちづくりにおけるフューチャー・デザインの活用～岩手県矢巾町の事例から～ ③教育におけるフューチャー・デザインの理解と活用	①京都先端科学大学 国際学術研究院 特任教授/フューチャー・デザイン研究センター長 西條辰義氏 ②岩手県矢巾町 教育委員会事務局 学校教育課 課長 高橋雅明氏 ③九州大学基幹教育院准教授/フューチャー・デザイン・コンソーシアム代表 岡本剛氏

2 事業の内容

(3) つくば国際会議場管理運営事業

■ 貸館事業（つくば国際会議場指定管理）

本年度は、昨年同時期(前年比)と比較して催事件数(96.3%)、利用料金収入(114.2%)、受付件数(83.4%)で利用料金収入を除けば前年度より減少しましたが、利用料金収入が3億円を超える過去最高益となりました。

また、国際会議件数は42件にとどまりましたが、全館貸切日数が45日と年間の13%の割合を占め、料金変更の効果も反映された結果となりました。

< 催事開催状況（年間） >

項目	令和7年度	令和6年度	増減
催事件数	1,356件	1,408件	-52件
来場者数	約19.6万人	約18.9万人	+0.7万人
稼働率	58%	56%	+2ポイント
利用料金収入	312,017千円	273,167千円	+38,850千円



< 収支状況 >

(単位：千円)

区分	令和7年度	令和6年度
【収入】	572,205	546,278
利用料金収入	419,821	374,127
・会議室利用料金	312,017	273,167
・付属設備利用料金	86,059	79,158
・駐車場利用料金	21,745	21,802
指定管理委託料収入	20,080	39,409
その他収入	33,842	132,742
【支出】	572,205	546,278
負担金支出	470,394	445,211
・茨城県科学技術振興財団	302,065	285,630
・その他の構成団体	168,329	159,581
その他の支出	101,811	101,067

2 事業の内容

(3) つくば国際会議場管理運営事業

■ 貸館事業（つくば国際会議場指定管理）（つづき）

< 管理運営事業 >

構成団体間の調整（理事会、運営委員会等）	指定管理業務実施に係る県との調整
施設等の利用承認及び取り消し等に関する業務	利用料金の収受に関する業務
催事開催についての相談・調整に関する業務	学術会議等の誘致に関する業務
会議場利用者への支援業務	自主事業の運営業務

< 今年度の主な国際会議等 >

会議名		開催日	参加人数
上半期	つくばフォーラム2025	令和7年5月14日～令和7年5月15日	1,600名
	REPM2025国際会議	令和7年7月27日～令和7年7月31日	1,250名
	第25回日本音楽療法学会学術大会	令和7年9月5日～令和7年9月7日	906名
下半期	ミツバチサミット2025	令和7年11月22日～令和7年11月24日	3,000名
	第17回HOPE MEETING	令和8年3月1日～令和8年3月6日	1,000名
	第137回日本森林学会大会	令和8年3月15日～令和8年3月18日	3,000名

2 事業の内容

(3) つくば国際会議場管理運営事業

■ 若者向け科学技術啓発事業（自主事業）

国内外の中高生の人材育成を目的とした独自の事業として、「つくば Science Edge」と「サイエンスキャスティング」を実施しました。

「つくば Science Edge 2026」

2025年度で16回目を迎えた国際的なアイデアコンテストで、国内外から2,496名の参加者がありました。科学者の先生方がその内容を審査し、的確に評価することで、中高生の科学技術への興味関心を高めるイベントです。厳正なる審査を行い、最も優秀な発表を行った茨城県立並木中等教育学校には、文部科学大臣賞が贈られました。

令和8年3月27日（金）～ 28日（土）
場所：つくば国際会議場



「つくばサイエンスキャスティング2025」

中高生を対象として、当財団と連携協力体制にある研究機関や民間企業等の実際の最先端研究現場を体験し、その成果を発表する一泊二日の教育プログラムです。実践的な学びと研究者や他校生徒との交流を通じて、科学技術分野への興味・関心を一層深めてもらうとともに、次世代の科学人材の育成を図るイベントです。

令和7年8月5日（火）～6日（水）
場所：つくば国際会議場・各研究所・大学
参加者：11校・33名（中学生・高校生）



2 事業の内容

(4) 科学技術振興事業

■ つくばサイエンスツアー推進事業

筑波研究学園都市に集積する研究機関等を貴重な地域資源として捉え、37機関51施設の研究機関等と連携し、施設公開・開放の促進を行い、県内外からの見学・学習の場として活用するとともに、科学技術の普及啓発を図る事業です。窓口や電話による案内、コース提案に加え、県内外に対するP R活動を実施し、土日祝日および夏休み期間平日に研究学園都市内の研究機関を循環する「つくばサイエンスツアーバス」の運行を支援しました。

<つくばサイエンスツアーバスの概要>

実施主体	関東鉄道株式会社
運行支援	つくばサイエンスツアー実行委員会（茨城県、つくば市、研究機関等）
事務局	茨城県産業戦略部技術振興局科学技術振興課
経費負担	関東鉄道株式会社 （夏休み特別運行時のみ、茨城県、つくば市、実行委員会会員）
運行方法	大型路線バス1台で運行
停車箇所	つくば駅発着で土日祝日に開館している6つの研究施設等を北回り・南回りの2コースで循環。平成25年11月からラッピングバスを運行。
運行本数	土日祝日：1日 9 便（北回り5便、南回り4便） ※夏休みは特定期間のみ月曜日を除き毎日運行 （期間は年により異なる。R 7 年度は7/19（土）～8/17（日）運行）
利用料	区間運賃 大人190円～320円 子供（小学生100円～160円）



2 事業の内容

(4) 科学技術振興事業

■ つくばサイエンスツアー推進事業（つづき）

<つくばサイエンスツアーバスの実績>

項目	令和7年度	令和6年度	前年比
利用回数	7,152回	6,762回	105.7%
運行日数	129日	134日	96.2%
1日平均回数	55.4回/日	50.4回/日	109.9%

<仮予約等の実施件数実績>

項目	令和7年度	令和6年度
一般団体・人数	115団体・3,440人	113団体・3,454人
学生団体・人数	160団体・11,147人	163団体・12,309人
計	275団体・14,587人	276団体・15,763人

令和7年度の状況

■ つくばサイエンスツアーバス

- ・夏休み特別運行が7日分減少（予算の関係）したことにより、運行日数は減っているが、
7月：スタッフガイド実施日増
10月：団体利用あり
11月：3連休あり
などにより、全体利用者数は増え、1日当たりの平均回数が微増した。

■ 実施団体

- ・一般団体及び学生団体ともに、団体数は、横ばいを維持。
- ・1団体における来訪者の微減により、全体の人数は減少。

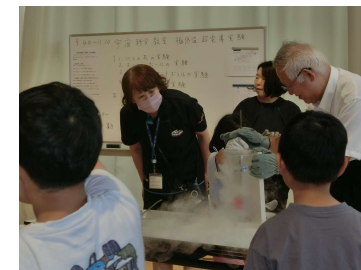
2 事業の内容

(4) 科学技術振興事業

■ つくばサイエンスツアー推進事業（つづき）

< ツアーバスPR特別イベントの実施 >

イベント名	実施日	参加人数
霞ヶ浦・つくばサイエンスツアー [第1弾]	令和7年6月22日（日）	47名
宇宙科学教室 極低温・超電導実験	令和7年7月6日（日）	39名
液体窒素で-196度の世界を体験	令和7年7月25日（金）	31名
昆虫の標本を作ろう	令和7年8月1日（金）	32名
水道おじさんの水実験	令和7年8月5日（火）	37名
チョウの翅の鱗粉転写でポストカードを作ろう	令和7年8月8日（金）	29名
霞ヶ浦・つくばサイエンスツアー [第2弾]	令和7年8月31日（日）	23名
宇宙 & 星空サイエンスツアー	令和7年10月26日(日)	28名
地球温暖化と私たちの暮らし	令和7年11月24日(月)	22名
霞ヶ浦・つくばサイエンスツアー [第3弾]	令和7年12月21日(日)	44名
霞ヶ浦・つくばサイエンスツアー [第4弾]	令和8年3月8日(日)	42名
宇宙科学教室 プチロケットを飛ばそう	令和8年3月15日(日)	69名



2 事業の内容

(4) 科学技術振興事業

■ つくばサイエンスツアー推進事業（つづき）

< 特別イベントの実施・研究機関とのイベント連携 >

イベント名	参加人数
サイエンスツアーバス特別イベント（12回）	443名
夏休み特別イベント『まぼろしの夜行列車を追え！』	1,270名
ツアーオフィス開設20周年記念 『つくば サイエンス・ナイトミュージアム』（6回）	161名
出展イベント（8回）	2,900名
水夜サイエンスカフェ（15回）	現地558名 ライブ配信1,577名
つくばで気軽にサイエンスツアー（3回）	103名



< 誘客活動 >

○茨城県内外（147箇所）を訪問し、事業説明・資料配布を実施

・教育委員会（茨城県内外12県・59市町村）

・学校：35校（福島、宮城、山形、茨城、埼玉、福岡、佐賀、長崎）

・旅行会社：7社・39箇所（JTB・NTA・KNT・東武トップツアーズ・関東ツアーサービス・アーストラベル水戸・タイムツーリスト）

○外国人誘客等

団体合計 75団体1,965人（前年同期75団体・2,026人）の見学をコーディネート（アメリカ、オランダ、マレーシア、タイ、中国他）

2 事業の内容

(4) 科学技術振興事業

■ 茨城県次世代エネルギーパーク推進事業

茨城県次世代エネルギーパーク推進協議会からの受託により、施設見学者の受入れ拡大と併せ、県内に集積する発電施設や研究機関等を県内外からの見学・学習の場として活用し、次世代エネルギーの普及促進及びエネルギー教育機会の創出を図りました。

< 次世代エネルギーパークの概要 >

事業協力機関	「県南・県西地区」「県北・県央地区」「鹿行地区」の3地区・14施設 < 県南・県西地区 > ①産業技術総合研究所 地質標本館 ②産業技術総合研究所 AIST-Cube ③高砂熱学工業（株） 高砂熱学イノベーションセンター ④積水ハウス（株） 積水ハウス エコ・ファースト パーク ⑤（株）ウィンド・パワー・グループ ウィンド・パワーつくば風力発電所 < 県北・県央地区 > ⑥東京ガス（株） 日立LNG基地 ⑦（株）日立製作所 日立オリジンパーク ⑧（株）日立パワーソリューションズ 大沼工場 ⑨（株）バイオパワー勝田 木質バイオマス発電所 ⑩北越コーポレーション（株） バイオマス発電施設 < 鹿行地区 > ⑪サミットウィンドパワー（株） 鹿嶋風力発電所 ⑫（株）ウィンド・パワー・グループ ウィンド・パワーかみす第1・第2洋上風力発電所 ⑬（株）ウィンド・パワー・グループ ウィンド・パワーはさき風力発電所 ⑭（株）カネカ 鹿島工場西地区大規模太陽光発電所
インフォメーションセンター	平成20年10月に、一般財団法人茨城県科学技術振興財団つくばサイエンスツアーオフィス内にインフォメーションセンターを設置し、案内業務を実施



2 事業の内容

(4) 科学技術振興事業

■ 茨城県次世代エネルギーパーク推進事業（つづき）

< 仮予約等の実施件数実績 >

項目	令和7年度	令和6年度
一般団体・人数	18団体・743人	22団体・936人
学生団体・人数	21団体・2,596人	11団体・1,040人
計	39団体・3,339人	33団体・1,976人

< 夏休み親子見学会の実施 >

イベント名	実施日	参加人数
研究所で学ぼう！地球のヒミツと未来の暮らし	令和7年8月6日	23名
親子で学ぶ エネルギーとものづくりの歴史	令和8年3月25日	30名



< 誘客活動 >

- 茨城県内外（147箇所）を訪問し、事業説明・資料配布を実施
- ・教育委員会（茨城県内外12県・59市町村）
- ・学校：35校（福島、宮城、山形、茨城、埼玉、福岡、佐賀、長崎）
- ・旅行会社：7社・39箇所（JTB・NTA・KNT・東武トップツアーズ・関東ツアーサービス・アーストラベル水戸・タイムツーリスト）

2 事業の内容

(4) 科学技術振興事業

■ 科学の甲子園全国大会エクスカーション事業

科学の甲子園全国大会つくば実行委員会からの受託により、科学の甲子園全国大会参加のためにつくば国際会議場に集まった各都道府県代表高校及び科学の甲子園ジュニア全国大会優勝チーム（中学生）1チームを対象として、つくば市内及び近隣市の研究教育施設を見学するエクスカーションを企画し、令和8年3月22日（日）に実施しました。

< 参加予定 >

各都道府県代表校	47校	高校生364名、引率46名
ジュニア全国大会優勝チーム	1チーム	中学生6名、引率1名
合計	47校・1チーム	417名（高校生364名、中学生6名、引率47名）

< 見学先研究教育施設 >

高エネルギー加速器研究機構 + 筑波大学キャンパス（車窓見学）	つくば市
防災科学技術研究所	つくば市
高砂熱学イノベーションセンター	つくばみらい市
国立科学博物館 筑波実験植物園	つくば市
JAXA筑波宇宙センター	つくば市
茨城県霞ヶ浦環境科学センター	土浦市
サイバーダイナスタジオ + 筑波大学キャンパス（車窓見学）	つくば市
産業技術総合研究所 地質標本館・AIST-Cube	つくば市
国土地理院 地図と測量の科学館	つくば市

